

## 米国 金融危機のなか消費者マインドは小幅改善(08年9月CB消費者信頼感指数)

発表日:2008年10月1日(水)

～期待だけで改善しており、今後信用収縮の影響を受け再悪化の可能性～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

03-5221-5001

○9月の消費者信頼感指数は59.8(前月の58.5)と市場予想の55.0への低下に反し1.3ポイント上昇した。足元での金融市場の混乱、景気・雇用の悪化によって現状認識が悪化した一方で、エネルギー・食品価格の下落などによる期待の改善を受け上昇した。ただし、その水準は個人消費の低迷を示唆しており、9月第1～4週平均のチェーンストア小売売上高(週間ベース)は8月対比▲1.3%(8月前月比+0.0%)と減少した。今後は足元での金融市場の混乱拡大の悪影響が9月の調査にはあまり織り込まれていないこと、10月に商業銀行の決算があり金融市場の混乱が続く可能性が高いことから、マインドは再び悪化するとみられる。

○内訳では現状指数が前月比▲6.2ポイント低下した一方、期待指数が同+6.4ポイント上昇した。現状判断では景気・雇用に対する悲観的な見方が強まった。9月初に公表された8月の失業率が急上昇したこと、他の経済指標の悪化、既にリセッション入りしたとの消費者の見方が増加していること、金融問題の広がりや背景に悪化したとみられる。一方、期待では原油価格の下落、支持率の低いブッシュ政権の任期終了が近づいていることなどによって景気・雇用の先行きに対する悲観的な見方がやや弱まった。

○現状指数と期待指数の詳細では、現状指数の構成項目である「景気」、「雇用」のマイナス幅がさらに拡大した。現在の景気に対する悲観的な見方が強まった(現在の景気に対する判断の「良い」-「悪い」が▲21.7と前月の▲19.0からマイナス幅拡大)。現在の雇用環境に対する悲観的な見方が強まった(現在の雇用機会に対する判断の「充分」-「困難」が▲20.6と前月の▲18.2からマイナス幅拡大)。現在の雇用機会に対する判断である(「充分」-「困難」)は、失業率と同じ方向に動く傾向があり、9月の失業率の上昇を示唆している。

○期待指数の構成項目では、「雇用」、「景気」がマイナス幅を縮小し、「所得」はプラスに転じた。雇用の先行きに対する悲観的な見方が弱まった(6ヵ月後の雇用に対する見方の「多くなる」-「少なくなる」が▲15.0と前月の▲19.3からマイナス幅縮小)ものの悲観的な見方は強い。景気の先行きに対する悲観的な見方は弱まった(6ヵ月後の景気に対する見方の「良くなる」-「悪くなる」が▲7.8と前月の▲13.2からマイナス幅を縮小した)。さらに、6ヵ月後の収入については「増加する」-「減少する」が+0.1と前月の▲0.5からプラスに転じた。

○インフレに関する調査では、引き続き消費者は物価上昇懸念しているものの、ガソリン価格・原油価格の下落を背景にインフレ見通しが6.2%(前月6.6%)と低下した。

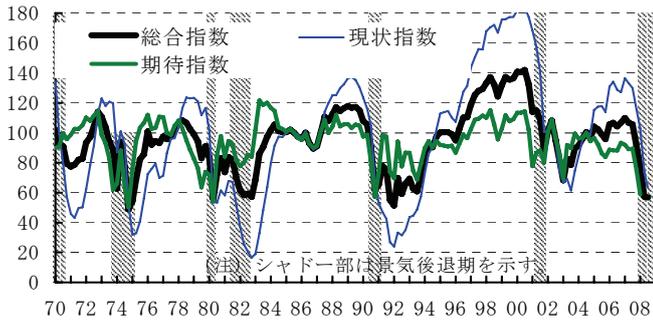
消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数			雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		ミシガン大学消費マインド		
	期待指数	現状指数		充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅	期待	現状	
08/03	65.9	49.4	90.6	19.2	24.5	8.6	26.0	5.4	3.4	69.5	60.1	84.2
08/04	62.8	50.0	81.9	17.1	27.9	10.1	27.4	5.8	2.5	62.6	53.3	77.0
08/05	58.1	47.3	74.2	16.1	28.3	10.6	32.9	5.1	2.4	59.8	51.1	73.3
08/06	51.0	41.4	65.4	14.1	29.7	8.5	33.5	5.1	2.4	56.4	49.2	67.6
08/07	51.9	42.7	65.8	13.6	30.2	9.2	32.4	5.0	2.8	61.2	53.5	73.1
08/08	58.5	54.1	65.0	13.5	31.7	12.0	25.2	5.2	3.4	63.0	57.9	71.0
08/09	59.8	60.5	58.8	12.2	32.8	13.5	21.3	4.9	2.1	70.3	67.2	75.0

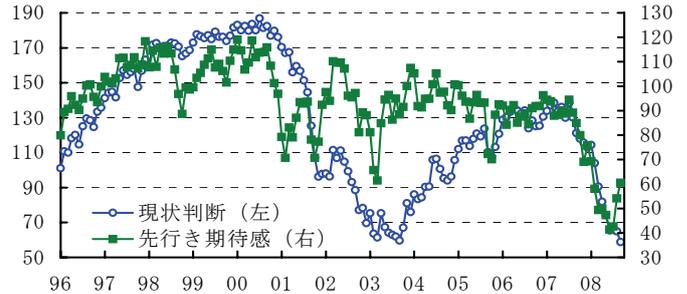
(出所) The Conference Board, University of Michigan

(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

消費者信頼感指数の推移(四半期)

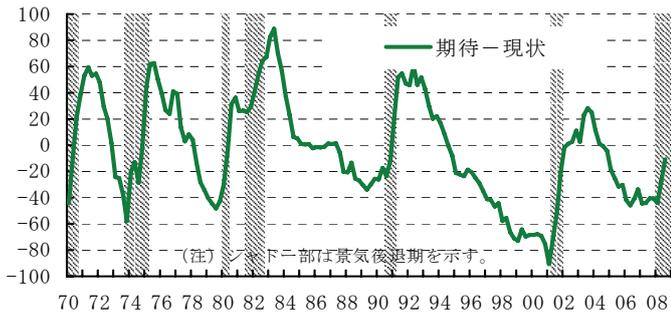


消費者信頼感指数の推移

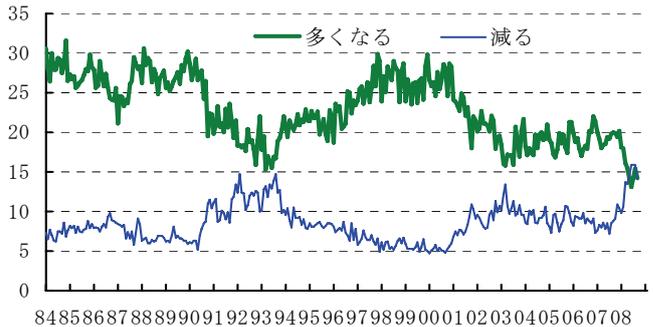


(出所) C B

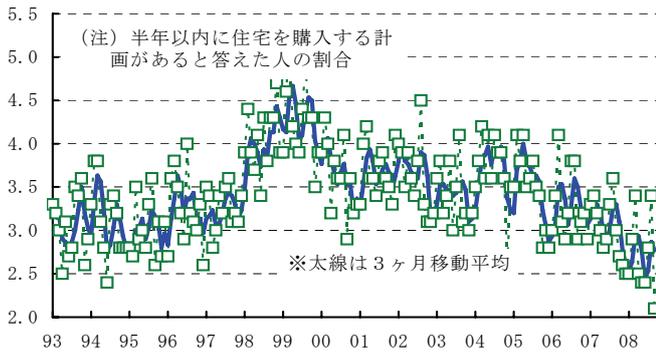
(期待指数-現状指数)の推移



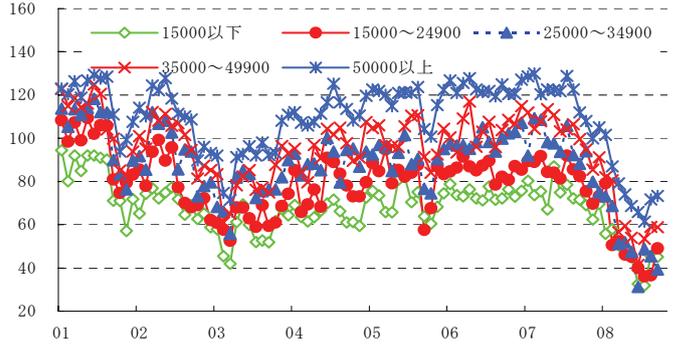
6ヶ月後の収入見通し



(%) 住宅購入計画比率の推移



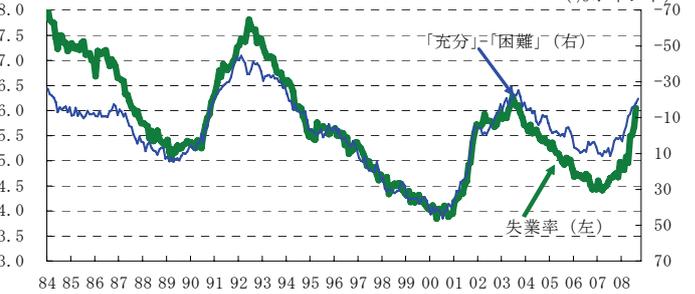
所得階層別(年収)の消費者信頼感指数の推移



(%) 消費者の1年後の金利見通し



(%) 現在の雇用機会に対する判断と失業率の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。